(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4092315号
(P4092315)
(45)発行日　平成20年5月28日(2008.5.28)　(24)登録日　平成20年3月7日(2008.3.7)

(51)Int.Cl.　　F I
E04H 1/02 (2006.01)　　E04H 1/02
E04F 19/08 (2006.01)　　E04F 19/08　102P

請求項の数 4　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2004-227668(P2004-227668)
(22)出願日　平成16年8月4日(2004.8.4)
(65)公開番号　特開2006-45882(P2006-45882A)
(43)公開日　平成18年2月16日(2006.2.16)
審査請求日　平成17年4月8日(2005.4.8)

(73)特許権者　307042385
ミサワホーム株式会社
東京都新宿区西新宿二丁目４番１号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(72)発明者　村田　成康
東京都杉並区高井戸東２丁目４番５号　ミサワホーム株式会社内

審査官　渡邊　聡

最終頁に続く

(54)【発明の名称】建物

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
１階の一部に、１階天井より低い位置に中間床が設けられ、この中間床の下方が収納空間とされた建物であって、
前記中間床の下方には、１階床より低い土間床が設けられ、この土間床と中間床との間にある土間側収納空間は、外部に開口しており、
前記土間側収納空間と玄関との間には、階段が設けられており、この階段の下方は、階段下収納となっており、この階段下収納には、玄関土間から出入りできるような出入口が設けられており、
前記中間床と１階床との間にある収納空間は、仕切壁によって、建物の内側を向く内側収納空間と、前記土間側収納空間側を向く外側収納空間とに仕切られており、
前記仕切壁は、土間側収納空間と建物の内側との間に位置する仕切壁、この仕切壁の両端部に設けられている平面視Ｌ字状の仕切壁、逆Ｌ字状の仕切壁を有していることを特徴とする建物。
【請求項２】
請求項１に記載の建物であって、
前記中間床は、前記土間側収納空間の開口部上において建物の外壁から外側に突出していることを特徴とする建物。
【請求項３】
請求項１または２に記載の建物であって、

前記中間床上に、中間部屋が前記２階床の一部を貫通して２階に突出するようにして設けられており、
前記２階の一部には、２階中間床が前記中間部屋の天井とほぼ高さが等しい位置に設けられ、この２中間床と前記２階床との間が収納空間とされていることを特徴とする建物。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか一項に記載の建物であって、
前記１階床上には、２階床および２階中間床を貫通して屋根に設けられた天窓まで吹き抜ける吹抜け空間が設けられていることを特徴とする建物。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、１階の一部に、１階天井より低い位置に中間床が設けられ、この中間床の下方が収納空間とされた建物に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、住宅等において物品を保管、収容する場所として、建物内部には押入や納戸、床下収納庫、小屋裏収納部、天井裏収納部等の収納スペースが設けられ、また、屋外には物置等が設置されることがある。
しかし、近年における生活の質の向上や多様化に伴い、生活に使用する物品が多種多様化および多数化する傾向にあり、これらの物品を保管、収容するために従来の収納スペースでは広さや容量が不足し、また、建物が建てられる敷地の有効利用という観点から、屋外物置等の設置は望ましくないため、その内部により大きな収納スペースを備えた建物が望まれている。
【０００３】
内部に収納スペースを備えた建物の一例として、特許文献１に記載のものが知られている。この特許文献１に記載の建物では、特定フロアと、この特定フロアの直上に位置する直上フロアとを有する建物であって、特定フロアおよび直上フロアは、それらの一部に設けられた中間床と、この中間床の下側に形成された中間床下側空間と、当該中間床の上側に形成された中間床上側空間とを備え、特定フロアの中間床上側空間の少なくとも一部と、直上フロアの中間床下側空間の少なくとも一部とが連通された吹き抜け空間が構成されており、特定フロアの中間床下側空間と、直上フロアの中間床下側空間のうち、吹き抜け空間を構成しない中間床下側空間とは、各々収納空間とされている。
【特許文献１】特開２００４－４４２１０号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところが、前記特許文献１に記載の建物では、建物内部に設けられた収納空間に対して、例えばアウトドア用品等、建物の外部で使用する物品を収納する際には、玄関から部屋や階段等を通過して収納空間まで運ばなければならず、使い勝手が良くない場合があった。
また、敷地が狭い都市型の建物では、敷地内にカーポートを確保するのが困難であるという問題がある。これを解消するために建物内にカーポートを組み込んだ建物もあるが、この建物では、建物内の一部をカーポートとして専有してしまうので、その分、居住面積が狭くなるという問題がある。
【０００５】
本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、建物の外部で使用する物品を使い勝手よく収納でき、また、カーポートとしても有効に利用できる収納空間を備えた建物を提供することを課題としている。
【課題を解決するための手段】
【０００６】

上記課題を解決するために、請求項１に記載の発明は、例えば図１～図９に示すように、１階の一部に、１階天井より低い位置に中間床１が設けられ、この中間床１の下方が収納空間２とされた建物であって、

前記中間床１の下方には、１階床３より低い土間床４が設けられ、この土間床４と中間床１との間にある土間側収納空間５は、外部に開口しており、

前記土間側収納空間５と玄関６との間には、階段１８が設けられており、この階段１８の下方は、階段下収納１８ａとなっており、この階段下収納１８ａには、玄関土間から出入りできるような出入口が設けられており、

前記中間床１と１階床３との間にある収納空間２は、仕切壁１５によって、建物の内側を向く内側収納空間１６ａ～１６ｃと、前記土間側収納空間５側を向く外側収納空間１７ａ～１７ｃとに仕切られており、

前記仕切壁１５は、土間側収納空間５と建物の内側との間に位置する仕切壁１５ａ、この仕切壁１５ａの両端部に設けられている平面視Ｌ字状の仕切壁１５ｂ、逆Ｌ字状の仕切壁１５ｃを有していることを特徴とする。

【０００７】

ここで、中間床の下方に設けられる収納空間のうち、１階床上に位置する収納空間の天井高が０．９ｍ～１．４ｍとなるように、中間床の上下方向の位置を設定するのが望ましい。

また、前記１階床より低い土間床は、例えば、１階床より基礎の高さ分低く形成してもよいし、それより若干低くまたは高く形成してもよい。

【０００８】

請求項１に記載の発明によれば、中間床１の下方でかつ１階床３より低い土間床４上に、土間側収納空間５が設けられており、この土間側収納空間５は、外部に開口しているので、建物の外部、つまり屋外で使用する物品を、玄関から部屋や階段等を通過することなく、直接、土間側収納空間５に運び込んで収納したり、土間側収納空間５から運び出したりでき、よって、土間側収納空間５の使い勝手がよくなる。

また、土間側収納空間５は、その土間床４が１階床３より低いので、１階床３と中間床１との間にある収納空間２より上下の高さ、つまり天井高が高くなる。したがって、この天井高が高い土間側収納空間５をカーポートして有効に利用できる。

さらに、中間床１上に部屋２０を設けることができるので、カーポートを建物内に設けても、居住面積が狭くなるのを防止できる。

【００１０】

また、建物の内側を向く内側収納空間１６ａ～１６ｃと、土間側収納空間５側を向く外側収納空間１７ａ～１７ｃとを備えているので、屋内や屋外で使用する物品を効率的に収納できる。

また、外側収納空間１７ａ～１７ｃの床は１階床３の一部であり、土間側収納空間５の土間床４より高いので、屋外で使用する物品を、土間床４上に収納する物品と、１階床３上に収納する物品とに分別して収納できる。

【００１１】

請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の建物であって、

前記中間床１は、前記土間側収納空間５の開口部５ａ上において建物の外壁から外側に突出していることを特徴とする。

【００１２】

請求項２に記載の発明によれば、中間床１が、土間側収納空間５の開口部５ａ上において建物の外壁から外側に突出しているので、この突出した中間床１を土間側収納空間５の開口部５ａ上の庇とすることができるとともに、中間床１上に設けられている部屋２０から出入りできるバルコニー床２３とすることができる。

【００１３】

請求項３に記載の発明は、請求項１または２に記載の建物であって、

前記中間床１上に、中間部屋２０が前記２階床２１の一部を貫通して２階に突出するよう

にして設けられており、
前記２階の一部には、２階中間床３０が前記中間部屋２０の天井とほぼ高さが等しい位置に設けられ、この２中間床３０と前記２階床２１との間が収納空間３１とされていることを特徴とする。
【００１４】
請求項３に記載の発明によれば、中間床１上に、中間部屋２０が２階床２１の一部を貫通して２階に突出するようにして設けられているので、中間床１が１階床３より高くても、中間部屋２０の天井高を容易に確保できる。
また、２階の一部には、２階中間床３０が中間部屋２０の天井とほぼ高さが等しい位置に設けられ、この２中間床３０と２階床２１との間が収納空間３１とされているので、１階と２階の双方に、それぞれの階の床から出入り可能な収納空間２，３１を設けることができる。
【００１５】
請求項４に記載の発明は、請求項１～３のいずれか一項に記載の建物であって、
前記１階床３上には、２階床２１および２階中間床３０を貫通して屋根に設けられた天窓まで吹き抜ける吹抜け空間５０が設けられていることを特徴とする。
【００１６】
請求項４に記載の発明によれば、１階３床上の部屋（食堂１０）に吹抜け空間５０を通して採光や通風を容易に確保できる。
【発明の効果】
【００１７】
本発明によれば、１階に設けられた中間床の下方に、１階床より低い土間床が設けられ、この土間床と中間床との間にある土間側収納空間は、外部に開口しているので、屋外で使用する物品を、直接土間側収納空間に運び込むことができ、よって、使い勝手よい収納空間を備えた建物となる。
また、土間側収納空間は、その土間床が１階床より低いので、その分天井高が高くなり、よって、この天井高が高い土間側収納空間をカーポートして有効に利用できる。
さらに、中間床上に部屋を設けることができるので、カーポートが建物内に設けても、居住面積が狭くなるのを防止できる。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１８】
以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。
本実施の形態の建物は２階建ての建物であり、例えば周知のパネル工法によって構築されている。なお、本実施の形態の建物は２階建てではあるが、２．５層分の高さを有している。
図１、図２、図８に示すように、１階の一部、すなわち１階の南西部に、中間床１が１階の天井より低い位置に設けられており、この中間床１の下方が収納空間２とされている。中間床１の下方には、１階床３より低い土間床４が設けられている。この土間床４は、１階床３より基礎の高さ分低くなっている。土間床４と中間床１との間は、土間側収納空間５とされ、この土間側収納空間５は、外部に開口している。
【００１９】
建物の１階においては図４に示すように、収納空間２の東側の玄関６が設けられており、この玄関６の北側に、トイレ７、洗面室８、浴室９が互いに隣接して設けられている。また、収納空間２の北側には、図４および図９に示すように、食堂１０、台所１１が互いに隣接して設けられており、台所１１と浴室９との間には、台所用の収納１１ａが設けられている。
また、図１に示すように、中間床１と１階床３との間には仕切壁１５が設けられている。仕切壁１５は、図４に示すように、土間側収納空間５と食堂１０との間に位置する仕切壁１５ａ、この仕切壁１５ａの両端部に設けられている平面視Ｌ字状の仕切壁１５ｂ、逆Ｌ字状の仕切壁１５ｃ、土間側収納空間５と玄関６との間に位置し、平面視逆Ｌ字状の仕

切壁１５ｄ、この仕切壁１５ｄの端部に設けられている仕切壁１５ｅ、この仕切壁１５ｅの端部に設けられている平面視コ字状の仕切壁１５ｆ等から構成されている。

そして、中間床１と１階床３との間にある収納空間２、つまり土間側収納空間５を除いた収納空間２は、仕切壁１５ａ～１５ｆによって、建物の内側を向く内側収納空間１６ａ～１６ｃと、土間側収納空間５側を向く外側収納空間１７ａ～１７ｃとに仕切られている。

【００２０】

土間側収納空間５の土間床４は、前記内側収納空間１６ａ～１６ｃおよび外側収納空間１７ａ～１７ｃの床より低いので、その分土間側収納空間５の天井高が高くなっている。したがって、この天井高の高い土間側収納空間５はカーポートとされている。また、土間側収納空間５の一部には、凹所５ａが設けられており、この凹所５ａは駐輪所となっている。

また、土間側収納空間５と玄関６との間には、階段１８が設けられており、この階段１８の下方は、階段下収納１８ａとなっている。この階段下収納１８ａには、玄関土間から出入りできるような出入口が設けられている。

【００２１】

前記階段１８は１階床３と中間床１との間に設けられたものであり、中間床１上には、図１、図２、図３、図５に示すように、中間部屋２０が設けられている。この中間部屋２０は、２階床２１の一部を貫通して２階に突出するようにして設けられている。この中間部屋２０は、図５および図８に示すように建物の南西部に位置しており、居間２０とされている。中間床１の北側の縁部には、手摺２２が設けられている。また、中間床１の南側の縁部は、土間側収納空間５の開口部５ａ上において建物の外壁から外側に突出している。この突出している中間床１はバルコニー床２３となっており、このバルコニー床２３には居間（中間部屋）２０から出入りできるようになっている。

【００２２】

また、中間床１と２階床２１との間には、図１、図５、図８に示すように、階段２４が設けられている。２階床２１上には、図１、図３、図６に示すように、部屋２５が設けられており、この部屋２５の西側に、トイレ２６と踊り場２７が設けられている。この踊り場２７には、階段２４の上端部が連結されている。また、この踊り場２７から部屋２５に出入りできるようになっている。

また、２階の一部には、図１～図３に示すように、２階中間床３０が中間部屋２０の天井とほぼ等しい位置に設けられており、この２階中間床３０と２階床２１との間が収納空間３１とされている。この収納空間３１と部屋２５とを仕切る壁には、出入口３１ａが形成されており、この出入口３１ａを通して部屋２５から収納空間３１に出入りできるようになっている。なお、この収納空間３１の天井高は、０．９～１．４ｍに設定されている。

収納空間３１の西側は、図２、図６、図８に示すように、居間２０の上部空間となっており、この上部空間と収納空間３１とを仕切る仕切壁３２には、開口部３２ａが形成されており、この開口部３２ａに位置する収納空間３１の床には、薄型のテレビ３３を設置できるようになっている。

【００２３】

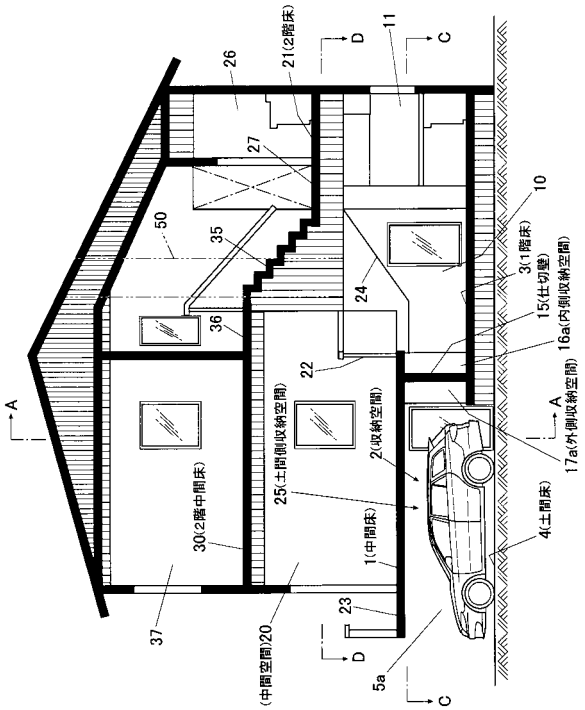
前記２階床２１と２階中間床３０との間には、図１および図７に示すように、階段３５が設けられており、この階段３５の下端部は前記踊り場２７に連結されている。階段３５の上端部は２階中間床３０に設けられた廊下３６に連結されている。この廊下３６の南側には部屋３７が設けられており、この部屋３７の東側に部屋３８が設けられている。これら部屋３７，３８は廊下３６の東側の端部から出入りできるようになっている。

部屋３８の天井は、２階床２１上の部屋２５の天井より高くなっており、これら天井間の段差にある空間が、収納部（ロフト）４０とされている。そして、この収納部４０には部屋３８の床上から梯子等を使用することなく、直接物品を出し入れできるようになっている。また、廊下３６にも、前記収納部４０と同じ高さにある収納部４１が設けられ、梯

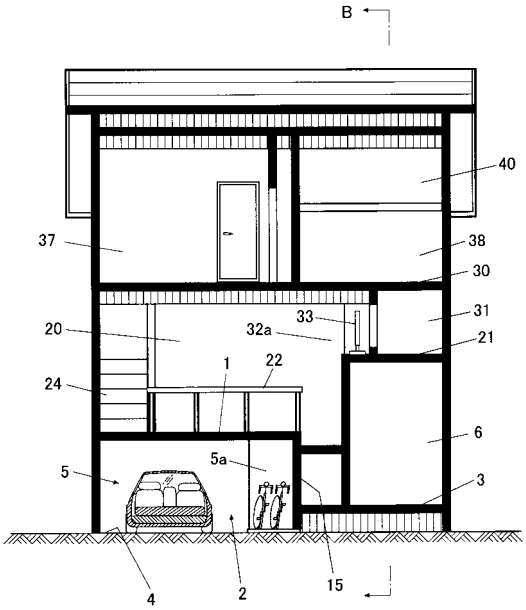
子等を使用することなく、直接物品を出し入れできるようになっている。
さらに、図３および図７に示すように、２階床２１上の部屋２５の天井裏には、ルーフバルコニー４２が設けられている。このルーフバルコニー４２上に位置する屋根には、開口部が形成されており、この開口部からルーフバルコニー４２に採光や通風を確保するようになっている。
【００２４】
また、建物の屋根には、図示しない天窓が設けられており、この天窓に対向して、図７に示すように、２階中間床３０に天窓とほぼ同形、同大の開口部４５が形成されている。さらに、２階床２１には、図６および図９に示すように、前記開口部４５に対向して、該開口部４５とほぼ同形、同大の開口部４６が形成されている。そして、この開口部４６の下方には、中間床１は位置しておらず、１階床３上の食堂１０が位置している。このように、１階床３上の食堂１０の上方には、２階床２１および２階中間床３０を貫通して屋根に設けられた天窓まで吹き抜ける吹抜け空間５０が設けられている。
【００２５】
本実施の形態によれば、中間床１の下方でかつ１階床３より低い土間床４上に、土間側収納空間５が設けられており、この土間側収納空間５は、外部に開口しているので、建物の外部、つまり屋外で使用する物品を、玄関から部屋や階段等を通過することなく、直接、土間側収納空間５に使い勝手よく収納できる。
また、土間側収納空間５は、その土間床４が１階床３より低いので、１階床３と中間床１との間にある収納空間２より上下の高さ、つまり天井高が高くなる。したがって、この天井高が高い土間側収納空間５をカーポートして有効に利用できる。
さらに、中間床１上に部屋（中間部屋）２０を設けることができるので、カーポートを建物内に設けても、居住面積が狭くなるのを防止できる。
【００２６】
また、建物の内側を向く内側収納空間１６ａ～１６ｃと、土間側収納空間５側を向く外側収納空間１７ａ～１７ｃとを備えているので、屋内や屋外で使用する物品を効率的に収納できる。
また、外側収納空間１７ａ～１７ｃの床は１階床３であり、土間側収納空間５の土間床４より高いので、屋外で使用する物品を、土間床４上に収納する物品と、１階床３上に収納する物品とに分別して収納できる。
【００２７】
さらに、中間床１が、土間側収納空間５の開口部５ａ上において建物の外壁から外側に突出しているので、この突出した中間床１を土間側収納空間５の開口部上の庇とすることができるとともに、中間床１上に設けられている部屋２０から出入りできるバルコニー床２３とすることができる。
また、中間床１上に、中間部屋２０が２階床２１の一部を貫通して２階に突出するようにして設けられているので、中間床１が１階床３より高くても、中間部屋２０の天井高を容易に確保できる。
また、２階の一部には、２階中間床３０が中間部屋２０の天井とほぼ高さが等しい位置に設けられ、この２中間床３０と２階床２１との間が収納空間３１とされているので、１階と２階の双方に、それぞれの階の床から出入り可能な収納空間２，３１を設けることができる。
【００２８】
さらに、１階床３上には、２階床２１および２階中間床３０を貫通して屋根に設けられた天窓まで吹き抜ける吹抜け空間５０が設けられているので、１階床３上の食堂１０に吹抜け空間を通して採光や通風を容易に確保できる。
加えて、中間床１上の居間（中間部屋）２０と、１階床３上の食堂１０とは床に段差があり、天井にも段差があるが、居間２０と食堂１０とは空間的に連続しているので、これら居間２０および食堂１０に空間的な拡がりを持たせることができる。
【図面の簡単な説明】

【００２９】
【図１】本発明に係る建物の一例を示すもので、建物の縦断面図である。
【図２】同、図１におけるＡ－Ａ線視断面図である。
【図３】同、図２におけるＢ－Ｂ線視断面図である。
【図４】同、図１におけるＣ－Ｃ線視断面図である。
【図５】同、図１におけるＤ－Ｄ線視断面図である。
【図６】同、図３におけるＥ－Ｅ線視断面図である。
【図７】同、図３におけるＦ－Ｆ線視断面図である。
【図８】同、中間床上の部屋と土間側収納空間を示す斜視図である。
【図９】同、１階の食堂付近を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００３０】
１　中間床
２　収納空間
３　１階床
４　土間床
５　土間側収納空間
５ａ　開口部
１５　仕切壁
１５ａ～１５ｆ　仕切壁
１６ａ～１６ｃ　内側収納空間
１７ａ～１７ｃ　外側収納空間
２０　中間部屋
２１　２階床
３０　２階中間床
３１　収納空間
５０　吹抜け空間

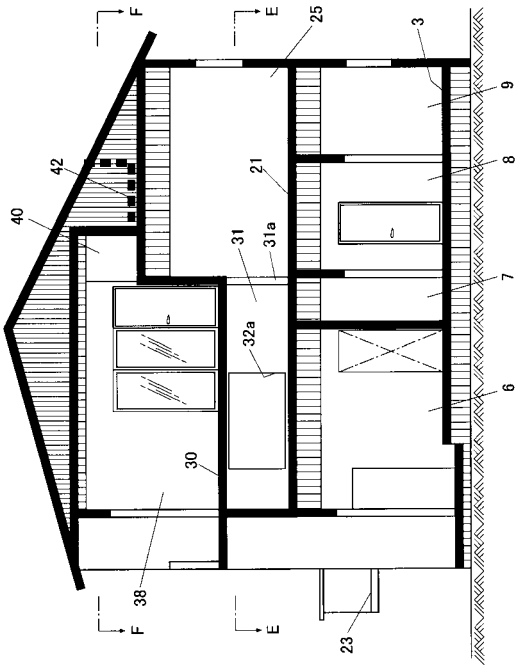
【図１】


A
A
B
C
C
D
D
E
E
F
F
1(中間床)
2(収納空間)
3(1階床)
4(土間床)
5a
10
11
15(仕切壁)
16a(内側収納空間)
17a(外側収納空間)
20
21(2階床)
22
23
24
25(土間側収納空間)
26
27
30(2階中間床)
31
31a
32a
35
36
37
38
40
42
50
(中間空間)20

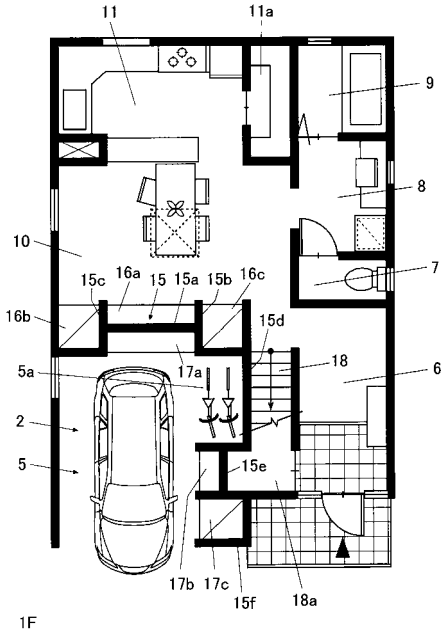
【図２】


B
1
2
3
4
5
5a
6
15
20
21
22
24
30
31
32a
33
37
38
40

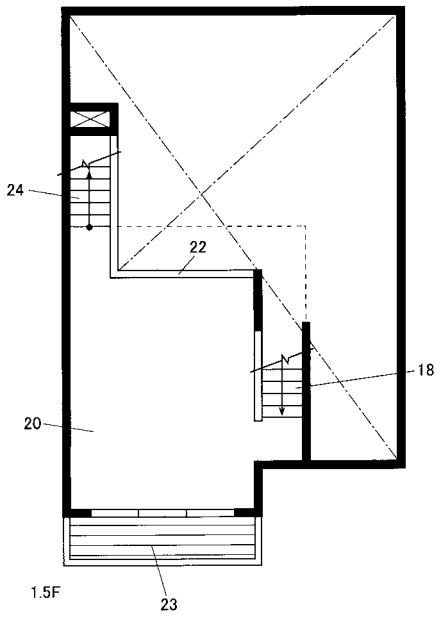
【図３】


E
E
F
F
3
6
7
8
9
21
23
25
30
31
31a
32a
38
40
42

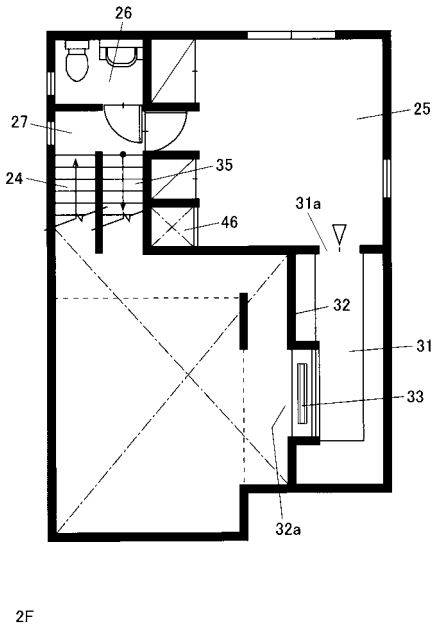
【図４】


1F
2
5
5a
6
7
8
9
10
11
11a
15
15a
15b
15c
15d
15e
15f
16a
16b
16c
17a
17b
17c
18
18a

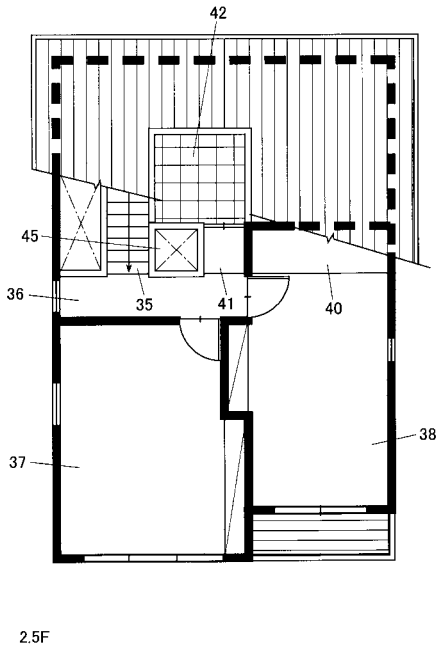
【図５】


24
22
18
20
1.5F
23

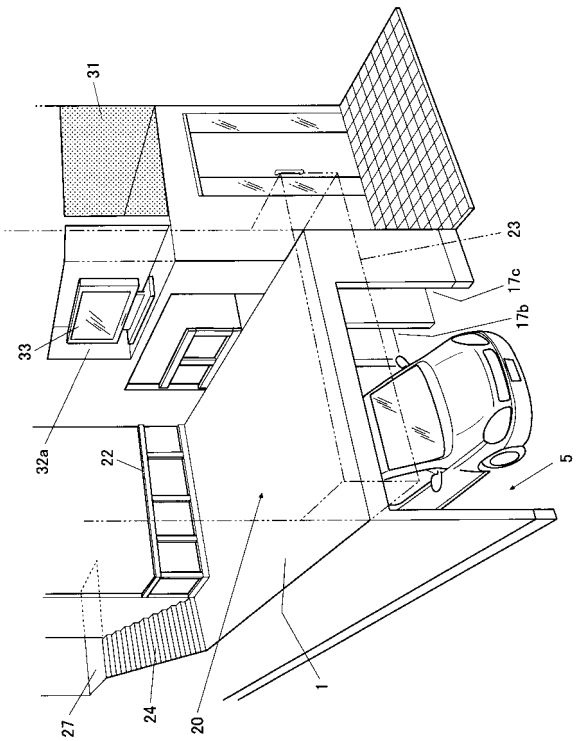
【図６】


26
25
27
35
24
31a
46
32
31
33
32a
2F

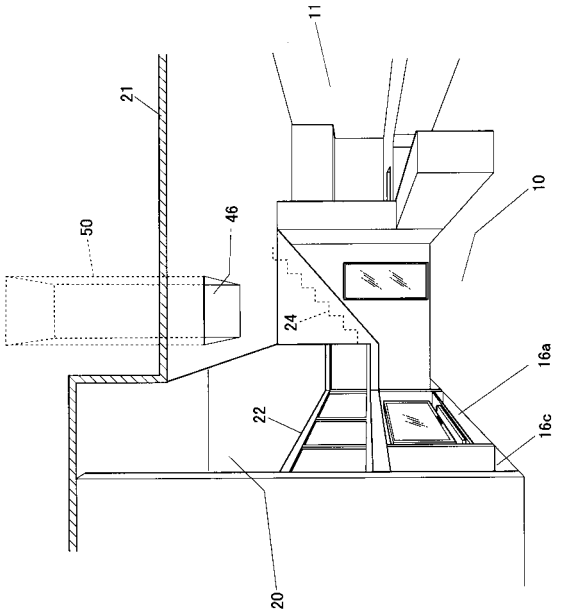
【図７】


42
45
36
35
41
40
38
37
2.5F

【図８】


31
23
17c
17b
33
32a
22
5
1
27
24
20

【図９】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平１１－０５０６７８（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－０８８３５６（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－０８７５８３（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－０６０１５７（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－０４９５５０（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｅ０４Ｈ　　１／０２
Ｅ０４Ｆ　１９／０８